

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	VILLAIN SCORN	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.540	△RG	0.051	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：VILLAIN SCORN

フレアーの幅 インチ

表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤

番

比較対照ボール：VILLAIN

フレアーの幅 インチ

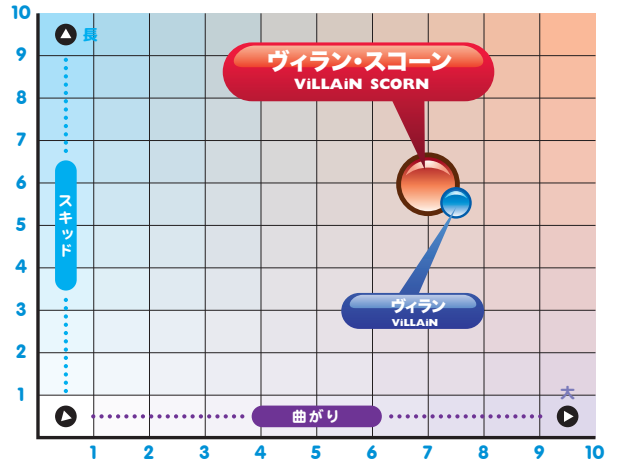
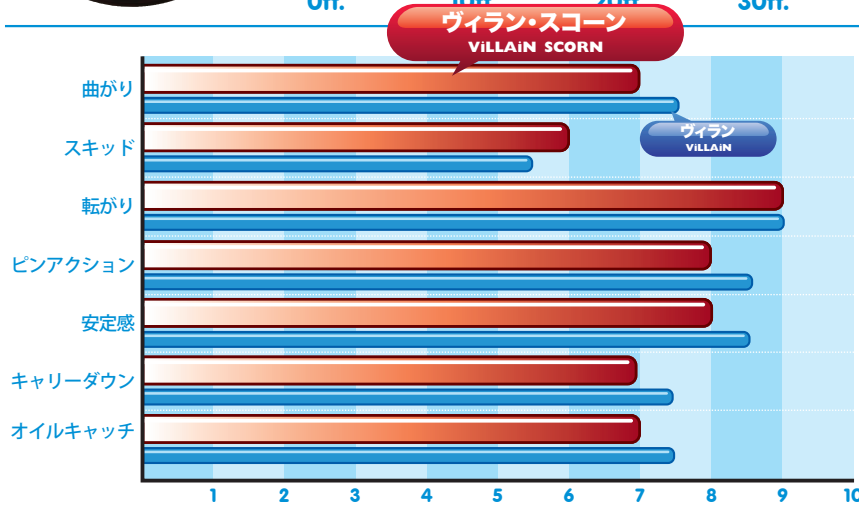
表面加工

- 箱出し状態
- 加工
- ペーパー
- ポリッシュ

PAPからピンとの距離 **4-1/2** インチ

研磨剤

番



ボールの評価

現在のMOTIV社のミディアムヘビーオイル用の領域はVILLAINとTRIDENT QUESTの二つ。

その領域にVILLAINの最新作VILLAIN SCORNが加わります。

今回のVILLAIN SCORNのコンセプトはミディアムヘビー領域でのスキッドの長さや角度のあるバックエンドリアクションで、そのパフォーマンスを出すためにVILLAINで使用していたCoercion MFS Reactiveから Hexion SE Reactiveへと変更されています。走り強化させる点でも3000 Grit LSS(サンド仕上げ)から5000 Grit LSP(ポリッシュ仕上げ)に変わっていることも積極的にバックエンドにエネルギーを保持させる意図を伺わせます。

MOTIV社は同じ領域でも似たボールではなく、TRIDENT QUESTの柔らかいフリップ状の曲がり、VILLAINのやや半曇りでもMidを越してからの明確な角度のある曲がり、そしてVILLAIN SCORNのポリッシュでVILLAINをやや超えてのスキッドと奥の動きを特徴とした曲がりの3つを用意したかったのでしょう。この3つでも同じ領域で各々使い勝手も用途も違うので、領域というよりは「どの性能ならコンディションにアジャストしやすいか」という視点でしょう、同じコンディションでも攻め方を変えられるだけのレポーターを自社で用意することも含まれているということです。あえてHexion SE Reactive(Strength Enhanced)のポリッシュ仕上げを載せたのも意図的だと確信しています。

もし投球して走り過ぎてしまうようであれば表面の光沢をやや消してスキッド調整を施すのも良いでしょう。私も箱出しから少しずつ番手を荒くしながらちょうど良い加工もつくれることが出来ましたので、自分のスタイルに合わせた加工に仕上げる楽しさもこのボールにはあります。今回のVILLAIN SCORNは走りを重要視して先でのうごきをより奥に作らせています。走り系の中にも高性能を求める女性のボウラーにも扱いやすいボールでしょう。

特記事項

先での動きを強調させたVILLAINが今回ポリッシュ仕上げでさらに動きが奥になった仕様です。走りが強く出る分、やや遅めのコンディションや女性の方には心地よく使用して頂けるボールでしょう。